

同 志 社 大 学 通 信

One PURPOSE

F O R B E T T E R C O M M U N I C A T I O N

No.115 1998 JUNE
DOSHISHA UNIVERSITY

座談会／同大生の課外活動
マネージャーの視点から
紀行／グリークラブ アメリカ演奏旅行記



NO.115
1998 JUNE

C O N T E N T S



マネージャーの視点から

座談会 ● 同大生の課外活動 2

ゼミ・ゼミおじゃまします・総合政策科学研究科：郡嶌ゼミ
総合政策の観点から環境政策を考える 7

同志社人訪問・天野 敏昭さん
国際アマチュアピアノコンクールで優勝 9

スチューデント・レポート・高嶋 竜太郎さん
世界の素顔に触れた500日 12

紀行 ● グリークラブ アメリカ演奏旅行記 13

データで見る同大生の1997年度 就職戦線 15

1998年度の大学予算について 17

CAMPUS NEWS 19

留学生の眼・関 微さん
異国で知る、伝統文化の素晴らしさ 22

One Purpose コメンタリー 23

先生の推薦する BOOK&VIDEO 25

COVER STORY

[表紙の人]



表紙の人は、商学部4年次生(太田進一ゼミ)中尾真由子さん。同志社女子中・高等学校から同志社大学へ。その間、バドミントン部(大学では同好会)に所属し、シャトルを追いかけて過ごした。商学部を選んだのは、高校3年の時に太田教授との出会いがあったから。大学説明会の席上、「日本経済新聞を読めるようになりたい人は、私のゼミに来なさい」のひと言に魅かれて決意したと聞く。昨春秋、浜名湖レークサイドプラザで開催された慶應義塾大学・青山学院大学とのゼミ交流会では、生産管理班の代表を務め、『中小製造業におけるCIM構築』のテーマで研究成果を発表した。このゼミ交流会は、彼女の学生生活の記念碑的な一日になったようで、後にこの研究テーマは論文となり「第13回電気通信普及財団賞」を受賞、「テレコム社会科学学生賞受賞論文集」として印刷・出版されるという。(詳細は、本号20ページに)

座談会 ●

マネージャーの視点から 同大生の課外活動



課外活動やEVE。これら学生たちの自主的な活動を支えるマネージャーや委員長たちが集まっていた。スポットライトのあたることの少ない彼らだが、その存在無くして課外活動やEVEが成り立たないことを私たちは知っている。今回はそんな彼らの視点から、同志社大学の課外活動について語ってもらった。

マネージャーはクラブ活動の牽引車?!

志賀 ● 今日は、マネージャーという存在がどんな役割を担い、日頃どんなことを考えながら課外活動にいらしているか聞きたいと思います。まず、皆さんがマネージャーになった理由から聞かせてください。

岡本将 ● ネット、アメフトでは主務という役職は男子マネージャーが担当することになっているんですよ。ところが僕の学年は、全部選手ばかりだったので、誰かがマネージャーをしなければならなくなつた。それで選挙が行われ、僕が選ばれたというわけです。

志賀 ● 岡本君にすれば、実に不本意だった？

岡本将 ● もちろんです。たまたま腰と膝の両方を一度に傷めて、入院生活を余儀なくされてしまった。なんと、その時にマネージャーの選挙があつたんですよ。ひどいでしょう。投票は記者で行つたのですが、僕がいなかった僕の名前が書きやすかつた（笑）。

それで病室に投票用紙が、ドサツですよ。お前、こつこつ結果になつた。どつとすると言われ、一瞬目の前が真っ暗になつて、ベッドから落ちました。投票の場に参加した者はその結果に不満があつてもクラブをやめられないことになつていくけど、僕は出てないからやめる権利があるといふ。僕はアメフトをメチャクチャやりたかつたんですよ。しかし、ブレイを捨てて、マネージャーをやる道しか残されなくなつてしまひ、どつじようかた……。その時はもう半泣きですよ。こんなのすくには答えられないと、少し時間をくれと答えるのがやっとでした。



初めは怪我もしていたので、クラブをやめてやると思っていました。もともとアメフトがやりたくてクラブに入ってたわけで、マネージャーなんかやって絶対おもしろくないはずでしよう。でもしばらくして、僕が断ったところで次の人が選ばれることになるだけだと考え直して、マネージャーの仕事をする自信はあったので、泣く泣くやることになったんです。

志賀・ずっと選手でやってきたから、そう思うのが当然だろうな。

網嶋・ポーターの場合、その辺の事情はだいぶ違います。まず選挙をするなんてことはないし、選手として使えないからマネージャーに転向することはありません。主務が次の主務を任命します。その人物には仕事ができる人を選ぶわけです。マネージャーといっても裏方ではなく、みんなを引っばっていく役目なんです。中途半端な人間にまかせたら、クラブがガタガタになってしまいます。

岡本将・うーん、誤解があったかもしれないけど、アメフトでも、マネージャーになる者はプレイヤーとしての実力は関係なく、その人間がマネージャーとしてやっていけるかが問われるわけです。

志賀・ということ
は、マネージャー
は選ばれた人材と
いうわけだ。
網嶋・そうです
よ。ポーターをこ
いでなくても、ポ
ーター部員という意
識は強くあります。
選手の時には単な



る部員の一人にすぎなかったけれども、マネージャーになると自分が引っばっていくという熱い気持ちが生まれるから、そういう意識は選手よりも強いのです。

裏方には裏方の美学がある

志賀・文化系のクラブではマネージャーというクラブの中心的存在という印象だけでなく、体育会系ではどうしてもプレイヤーができないから……と思われがちだね。

網嶋・そこが正しいところですね。

田村・交響楽団のマネージャーもそんな格好いいものではないですよ。「演奏面でもりも運営面で貢献するんだ」という先輩方の姿も多く見えましたし、実際に間近で見て派手な面よりも、その裏で一生涯懸命がなくてはならない仕事、ある程度演奏面を犠牲にして働かざるをえない苦しさといったことを感じましたね。

志賀・周藤君の場合、EVE実行委員長ということでマネージャーとは立場が違うと思いますが？

周藤・委員長というと偉そうだけど、要は雑用係ですからね。組織をまとめたり、大学側と交渉したり、企業に説明したり、仕事が多岐にわたります。

僕はみんなが楽しんでくれたらいい、いい雰囲気になってくれたらそれでいいんです。でも皆さん、自己陶醉したりしませんか。俺って凄いやな、人のためにやっているなんて

PROFILE

岡本 将志さん

【アメリカンフットボール部・主務】

法学部4年次生



岡本 真由美さん

【サッカー部マネージャー】

工学部4年次生

周藤 克久さん

【第122回全学EVE実行委員会委員長】

法学部4年次生



田村 忠司さん

【同志社交響楽団チーフ・マネージャー】

法学部4年次生

網嶋 雄一郎さん

【ポーター部・主務】

文学部4年次生





そんな気持ちはないですか。

岡本将 ● ああ、ああ。

周藤 ● 裏方には裏方なりの美学があるって感じかな。

岡本将 ● そう、そう。だから選手のためなら嫌なこともみんな自分が引き受けてしまっつ。

綱嶋 ● トラブルがあっても、選手はそんなことは知らないと言えるけど、マネージャーはそれではダメ。責任はみんなマネージャーがとることが多いです。

周藤 ● たとえば体育会系のクラブなら、プレイヤーが練習していたら、マネージャーもずっと残っているわけでしょう。僕たちもいつしよで会計が一田足らないと僕もつきあうんですよ。夜中の十二時には終わるかなと思っていて、二時になってしまっつ。それでも終わらなくて朝になって、ああ、そのまま田辺に行っつかなとなる。こういうマネージメントの仕事は

整理人情的なところがあって、自分の事情よりも、組織の事情によって動くことが大きいですよ。

女子マネージャーは怒っている

岡本真 ● 私ははじめからマネージャーとして入ったのですが、男子の主務はプレイヤー兼任なので、洗濯から試合の用意まで任されるし、会計もやる。けっこう大変なんです。

志賀 ● いいところだけ、男子マネージャーがとっていきみたいな感じがな。

綱嶋 ● そういつころは確かにあるなあ。ポーター部では女子マネージャーは男子マネージャーのアシスタント的な仕事をしているけど、洗濯はしない。午前四時三十分起床なので、朝の食事は男子マネージャーが作り、夜は女子マネージャーが作ります。

岡本真 ● ただでさえ忙しいのに、余計な仕事を押しつけるわがままな選手には腹が立つ。バイクを使うためのステッカーがなかなかもらえないから早く取っつてこいと言っつたり、バイクで移動は禁止と注意すると、大学に怒られるのはお前だろと言っつたんです。

志賀 ● これからは大学も注意する相手をちゃんと考えないといけない(笑)。

岡本将 ● 僕も選手の頃は、女子マネージャーが何をしているかまったく知らなかつた。主務になって、マネージャーが僕の手足となって働いてくれているわけだけど、僕が偉いわけじゃない。彼女たちは実は僕よりしんどい思いをしているわけ。アメフトでは相手チームをビデオで分析するので、彼女たちは試合が終わると家に帰っつて、一睡もしないで、ビデオを何本もダ

ビングします。そして次の日に選手一人ひとりに配るのです。夜中にやっていることを僕は知っつているけれども、選手は知らない。それなのにちょっとプレイがよくて偉そうにしている選手にはむかつきます。お前のためにマネージャーがやっつてくれているんだぞと言いたい。その人のためにもよくなり、そういつことがわかつつて社会に出てこそ、体育会に入っつた意味があるんだと思います。

綱嶋 ● 僕は選手と台宿生活をしているけど、僕以上に女子マネージャーは大変じゃないかな。男子部員の知らないところでいろいろな仕事があります。それは選手からは見えない。僕も選手の時は、なんで今日は女子マネージャーが休みなんだとか言っつて怒っつていた口から……。

周藤 ● 僕だつて、夜遅くまで起きていることは何度でもある。百一、三千あるEVEの出店の配置を決めるときは徹夜。複雑なパズルのように配置を決めて朝を迎える。すると、やっぱり出店やめますとかが、おでんやめて焼きそばにしまつと言っつてくるサークル員がいるのです。するともう一度やり直しますよ。印刷屋さんにも頭を下けて、パンフレットを直してもらいます。それでも変更できずに、焼きそばの出店の

PROFILE



志賀 理

【商学部助教授】

● 同志社大学の学生時代にはポート部に所属したこともあり、スポーツマンとして知られる！



横にまた焼きそばと、同じ焼きそばの店が並んでしまつこともある(笑)。我々の責任じゃないですよ。もっと全体のことを考えてくれという感じですね。

同大生にとっての愛校心とは？

志賀 ●ところで、今の学生はEVEやサークルをどう思っているのかな。

周藤 ●うちの学生はあまり参加しませんね。どうも自分とは無関係のイベントだと思っている節がある。やっている学生が楽しいだけで、誰がいつやるかという感じさえありますね。他大学の学生がたくさん来て、夕方になったらルーズソックスの女子高生が急増する(笑)。愛校心はあるかもしれないけど、参加意識はほとんどないですよ。同志社の愛校心は個人単位で、集団で何かをするのには発揮されないのかな。同立戦に行くとかわかるけど、立命館に比べて応援席はガラガラなんですよ。

網嶋 ●そう思いますね。僕たちも同志社を背負って試合をする気もなく、自分たちが勝ちたいと思っただけ。他の大学は自分の大学を背負っているという愛校心があるから、団結心もあります。ひとつの提案ですが、試合の日は大学がマイクロバスを用意して、みんなで応援に行く。そうすれば選手も大学の代表という意識が芽生えるし、大学のアピールにもなると思います。

志賀 ●サッカーには応援は来ているの？

岡本真 ●サッカーも全然。父母や友人たちが来るくらい。試合を知らせようとポスター貼ったりしているんですけどね。

岡本将 ●キャンパスに出店を出しても、一年

間でチケットが五枚売ればすごい。一般学生は体育会にはまったく興味がないんでしょうかね。

周藤 ●サークルに入る学生も減ってますね。この前もある教授が、授業に出席する学生が増えたと同僚気味に言っていましたよ。

志賀 ●増えた原因はそこにあるのか？(笑)。

周藤 ●部活をしていると、田辺と今出川との往復がしんどい考えるからかもしれない。

志賀 ●「コンパをするならポート部へ」というポスターを見て、何だこれ。こつでも言わないと入らないのかなと思ったりした。

網嶋 ●確かに部員は減っていますね。

岡本将 ●勧誘のとき五百人がアンケートに答えてくれた。さそや入部希望者が殺到すると思つたら、二十人ちょっと。

志賀 ●そのクラブの魅力を新入生に伝えるのは難しいよね。

網嶋 ●でも本音を言えば、やる気のある人は黙っていても入ってくる。朝は四時半から練習でしんどいけど、本当のことを言つた年のほつが、たくさん入ってきた。熱く語れば、絶対に耳をかたむけてくれますよ。

自主活動に大学の支援は必要!?

田村 ●施設や設備について同志社は比較的恵まれていますよ。ただ京大の交響楽団は貧弱な施設でもすごくつまい。それは、二十四時間学校が開いていて、練習したい人たちが好きな時に練習できるから。でも僕たちにはできないんですよ。練習場が二十四時間、休日も開放されていると嬉しいですね。

岡本真 ●私の場合は、こんなこともあるんで

す。グラウンドの横に洗濯機を置いたら駄目だといつので、しかたなく水道で手洗いをしているんですよ。

志賀 ●冬でもやっているわけ？

岡本真 ●ええ

岡本将 ●練習終わってヒデオをチェックすると十時になってしまふ。十時には学校を出ると言われているし、筋肉トレーニングしたくてもする時間がない。だから本当に筋肉トレーニングをしたい人は授業をさぼって午前中にやっていますよ。新しくできた筋肉トレーニング施設も活用されにくいのが現実です。大学側に言いたいのは、もっと残らせてほしいということ。

志賀 ●もっと活動の時間がほしいのは、どのクラブでもあるわけだ。これから同志社の課外活動を盛り上げるためには、それはいいと思う？

網嶋 ●われわれ体育会系のクラブは愛校心が欠けている。もっと同志社にいるという帰属意識を強く持てば、目標も明確になりますよ。

志賀 ●具体的にどんなことをすれば……。

網嶋 ●さっきも言つたけど、遠征の時に学校側が応援のバスを出してくれたらいいと思うんです。でも、そうすれば自主的な活動ではなくなるかもしれないけど、そこからだって自主的な活動を進くことができるはずです。



CLOSING
クロースアップ

「立ち合いの緊張感がたまらない!」

入学した翌日、

相撲部の部室のドアを開けた時のことを西野さんは忘れないという。



●京都大学の相撲部で稽古をする西野さん

「マネージャーになりたいと言ったら、部員の人が驚いて僕のからだを見てたんです(笑)」。西野さんは身長一六七センチ、体重五五キロ。小柄な体格だが、相撲への情熱は人の何倍もある。「中学校から相撲が好きで、高校の時には学生相撲の大会も見にいった。部屋の押入れには相撲雑誌のバックナンバーがぎっしりという彼が、マネージャーになったのは自然だった。「学生相撲連盟との連絡、遠征の手配、体育ハウスの調整など、マネージャーの仕事は実に雑多。試合で選手が勝った時は自

分のこのように嬉しいですよ。」
マネージャーになって人脈が広がったという西野さんは、自分でも相撲をとってみたいと思いい、京大の相撲部の練習に参加している。「昨年、六十キロ未満の試合に出たのですが、寄り切りで負けて、0勝1敗の成績です。監督からは卒業までに1勝しろと、はつばをかけられています(笑)」。学生相撲の魅力は相撲が好きであれば、その楽しさを誰もが表現できることにあるという。「相撲の勝負は立ち合いのほんの一瞬で決まる。こんなスポーツは他にないでしよう」。



西野 哲史さん
【文学部文化学科文化史学専攻】
3年次生
●相撲部マネージャー

岡本真 ● 大学もいっしょになってクラブを盛りあげてほしいですね。大学が試合の日を告知したりしてくれたらいい。

周藤 ● 僕は何かしてもらおうというのは嫌だから、大学側の支援は絶対拒否しますね。

志賀 ● 大学は口をはさまないで、黙っていてくれと。

周藤 ● ただ、大学側と信頼関係を築くようにしています。しかし、EVEやクラブなど個別の活動については自分たちの責任においてやらせてほしい。参加者が少ないから、応援が少ないから盛り上がりがない……だから大学側に……という論理には持つて行きたくない。企画が良ければもっと学生が呼び込めるし、全国レベルで強くなればたくさん応援に来てくれると考えるのが僕らの立場じゃないのかなあ。

やった分だけ返ってくるものがある

志賀 ● 最後に、マネージャーという役割を通してそれぞれが得たものを教えてください。

田村 ● 初めは、なぜ自分がマネージャーなのだろう? という疑問をもって始まって、仕事をするうちに自分が育てられていくという部分があると思うんです。自分が責任をもって仕事をしなくては団体が上手く動かなくなってしまう。マネージャーという仕事を通じて自分が

成長していくことを感じられる。これが、僕が学生生活の中でクラブを通して得た最大のものです。

岡本将 ● 僕は選手をやってきた時期もあったので分かるのですが、マネージャーは選手より拘束時間が長く、田村さんの言うように、本当に成長しました。こういう経験ができたのは本当によかった。社会に出るための準備段階になったと実感しています。

志賀 ● 岡本君は一年の時には、今日こんな座談会の席で発言しているとは思わなかったんじゃないかな。

岡本将 ● 今頃はアメフト雑誌でスタープレイヤーとしてインタビューを受けているはずだった。まさかマネージャーとして『ONE PUPPOSE』に載るなんて(笑)。

岡本真 ● 私と同じように、マネージャーをしなかったら絶対できない体験がいっぱいありました。クラブはマネージャーがいるから成り立っているところがあると思う。マネージャー同士でやめようという話で言ったこともありましたが、そうしたら選手は何もできなくて困ってしまう。それくらい私たちは自信をもってやっています。岡崎 ● 僕も自分が集団をまとめる立場になるなんて思いませんでした。けっこう楽しいし、前向きになった。新しいことにチャレンジする自信もついてきましたね。

周藤 ● EVEが終わってからは、ハガキが一枚届いて、とても楽しかったと書いてあった。これっていいよね(笑)。やった分だけ返ってくるものがあるんですね。人のために何かをやっている喜びを感じる人は少ないと思っていたのに、まさか各クラブに一人ずついるなんて、これは大発見ですね(笑)。



大学院・総合政策科学研究科の郡嶌ゼミは、三月一日、中央大学、慶應義塾大学で同じく総合政策を専攻する大学院生を今出川キャンパスに招き、研究発表や意見交換を行うインターゼミを開催。開催までの一週間は大学に泊まり込んで準備をしたというゼミ生たちは、今は修士論文に大忙しの日々。「食事の時間も惜しいけど、でも楽しい忙しさ」というゼミ生に、研究内容や大学院での生活についてお話を伺いました。

稗田▼インターゼミは、本当にお疲れさまでした。

矢後▼春休みを費やしたけど、インターゼミは有意義だった。二、三人で一つのテーマを取り上げ、それぞれの意見や考えを調整しながら一本の論文にまとめ発表しましたが、あのような経験は初めてのこと。院生同志は普段個々のテーマを研究しており、夜を徹して意見をぶつけ合うなんてことは未だかつてなかった。

山本▼発表するという機会も初めてのことです。緊張しましたね。

稗田▼そうですね。私は二十分の持ち時間の内、二十五分のベルが鳴った時点でまだ半分しか発表できていませんでした。いかに上手く内容を伝えるかという技術も、身に付けておくべきことだと痛感させられましたね。

山本▼そして何よりも、各大学の問題意識やアプローチが異なり、様々な視点からの意見交換ができたと思います。特に中央大学のゼミ生

は社会人だったので業務レベルからの話は理解力があり、その上非常にプレゼンテーションが上手く勉強になりました。

稗田▼視点の違いは出身学部にもよるのでしょうか。法・経済を初め、私は文学部出身だし、

山本さんは家政学、矢後さんは教育学ですね。私について言えば、学部生のころは日本民俗学を学んでいました。しかし、民俗学の自然に対する感謝と畏怖の念によって環境を守るという形態はすでに失われて再生不可能なものです。そこでそれに変わる形態を探ると総合政策に

来しました。今は地球温暖化問題の中で、その一つの対策手法として共同実施を研究しています。これはビジネス主体の形態です。

矢後▼COP3（第三回地球温暖化防止締約国会議）は、地球益よりも国益が先行し、各国

総合政策の観点から 環境政策を考える



総合政策科学研究科

「郡嶌 孝ゼミ」

PROFILE

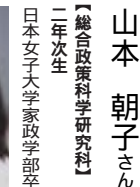
矢後 恵一さん



【総合政策科学研究科】
一年次生

法政大学教育学部卒

山本 朝子さん



【総合政策科学研究科】
二年次生

日本女子大学家政学部卒

稗田 靖子さん



【総合政策科学研究科】
二年次生

同志社大学文学部卒

の調整がなかなか進みませんでしたね。その緩和手法の一つとして、排出権取引や共同実施が打ち出されたんですね。

稗田 ▼ はい。共同実施は、先進国企業に他国と共同しての温室効果ガス削減を認めるもので、その結果、先進国企業に他国での環境対策をとらせるインセンティブとなり、地球全体として、エネルギー効率や植林事業が進む可能性があるといえます。環境対策は、ビジネスと両立して行つことが重要なんですよ。

山本 ▼ でもその考え方も、地域によって違いがあります。例えば、ヨーロッパは環境があつて次にビジネスを考える。一方、アメリカはまずビジネスありきの国ですね。日本はどちらかといえばビジネスあつての環境だから、アメリカの環境政策は大いに参考になりますね。ホームページを通じて最新の政策を調べるだけでなく、電子メールを使って積極的に質問することもあります。その回答が確実に送られてくること、時には関連した資料を郵送してくれること

には、驚かされます。

稗田 ▼ 情報公開が進んでいるからでしょう。でもそればかりではないですね。情報を公開する側と公開させる側が相互に責任を果たしているからでしょう。

山本 ▼ 同感です。行政、企業、市民がそれぞれの責任を果たしていかなければならないのに、日本ではすぐに責任転嫁をしたがる。たとえばタイオキシン問題では、行政が悪いという主張がよくなされますが、消費者も、自分たちがタイオキシンを発生させる「ミ」の出方をしていることまでは気づいていない。私は家政学を専攻していて、ずっと消費者の立場から環境を考えてきました。そして消費者が責任を果たすために、環境に関する情報を把握しておくことが必要だと考えたんです。そこで情報提供ツールとして環境ラベルを取り上げ、事例を調べながら、有効な制度デザインについて研究を進めています。

矢後 ▼ 僕の場合は、地域環境の創造をテーマ

にイギリスの事例研究を進めています。例えば、都市開発の問題や、荒地、工場跡地の利用をどのようにしていくか。そこで重要となるのは、その地域の特性、政治的問題、そして経済、社会的な機能を総合的に見ていくことだと思えます。つまり地域環境のデザイン設計における社会的な意図形成をどのように図り、それに基づいて、どのように行政・企業・市民がパートナーシップを築いて行動するか。この観点からイギリスにおける都市計画のシステム、市民参加の問題を取り上げて、日本ではどういう仕組みが考えられるか検証しています。

稗田 ▼ 総合政策は複雑に絡み合った問題を、それぞれの立場を考慮しながら解いていくのに有効な学問ですね。例えば環境は特定の既知の学問分野では取り扱いにくく、様々な視点から分析していくことが必要だと思います。

山本 ▼ でも、だからこそより現実的な政策が提言できるんですよ。そこに同志社の総合政策科学研究科で学ぶ醍醐味があるのではないでしょう



学際的な立場から環境政策を提言する

総合政策科学とは、経済学や政治学、さらに法学といった社会科学の学問を学際的に総合化した学問と言われることがあります。学際的とは、もちろん、それぞれの学問的領域を残したままでの「学際」ではありません。それぞれの領域そのものを取り扱った「総合化」であります。

総合政策科学はまた問題発見と創造的思考による問題解決を目指す学問とも言われることがあります。とりわけ、そのアプローチは具体的な政策の立案・実施・評価を通じて、学際的・多分野的なアプローチによる総合的・合理的な政策形成を目指す学問であるということです。

経済(エコノミー)と環境(エコロジー)は同じ語源を持つ言葉です。この経済と環境の総合化・統合化という視点



郡 島 孝
【総合政策科学研究科教授】

から「環境政策」を論じるのが環境問題への「総合政策科学」的アプローチということになります。環境「効率」と環境「公正」に基づく「持続可能な発展(経済と環境の両立)」社会を築くための環境政策を提言することがこの学問の中心にあります。

世界の素顔に 触れた500日

高嶋 竜太郎

さん

● 経済学部四年次生

友人達が企業から内定をもらい、卒業旅行談義に花を咲かせていた四年生の秋、僕は自転車による世界一周の旅に出た。

同志社中学から同志社高校、そして同志社大学へ。順調過ぎるほど順調に歩んできた人生。このまま卒業し、企業戦士として社会に飛び出して悔いはないのか？ 国際化時代と言われるが、自分のどこが国際化したと言えるのか？ そんな自問の中で決意した旅だった。コースは、途上国のインフラの事情をつぶさに見たいとの思いから中南米、アフリカインドを回るルートを計画。かねてからぜひ訪れたいと願っていた南米の南端パタゴニア地方をコースに組み込んだ。



スタートはアメリカ・サンフランシスコ。万事順調に行くはずもないと覚悟していた旅だが、一カ

月目で早くも挫折。メキシコ山中で風邪をこじらせ三日間ダウンした。慣れない

い風土に慣れない食事、ただでさえ重い特注自転車に四十キロ近い装備を積んだ旅に、心身ともに悲鳴を上げたのだ。見ず知らずの土地で倒れるその孤独感は一ひとだが、両親への思いよりも梅干し茶漬けへの思いが強かったのは、まだしたたかさを失っていないかったのだろう。南米大陸を南下し、一路パタゴニアを目指す頃には、リズムがつかめだした。そして旅のテーマであった世界の厳しい現実に出会った。南米大陸の中央部に位置する国、ボリビア。山々に囲まれたこの国は、産業らしい産業がないため、主要都市を結ぶ道路の舗装さえままならず、人々は水、電気にも不自由する暮らしを送っていた。比較的豊かなチリやアルゼンチンに隣接しながらこの貧しさ、経済格差の問題は、南北問題というより南々問題ではないのかと思うようになった。

この思いはアフリカに渡ってさらに深まった。日本では見られない大草原や氷河を頂くアンデスの山々など、地球の美しさを満喫させてくれたパタゴニア、文明が幾重にも折り重なってワインのような芳醇な香りを醸し出すヨーロッパを経て訪れたアフリカ大陸には、ボリビアを上回る貧しさがいくつもあった。中でも、タ

ンザニアの南方に位置するマラウイは、乳児死亡率が五〇％を超え、エイズ感染率も一〇％に達する最貧国。貨幣すら本国で造ることができず、他国から供給を受けているという。

飢えに苦しむ子供たちや難民の惨状は知っているつもりだったが、それはあくまでテレビを通じて、観客として知っているのであって、死と隣り合わせた彼らの生活の前には、みすばらしい身なりの僕も裕福な一旅行者に過ぎなかった。こうして国に

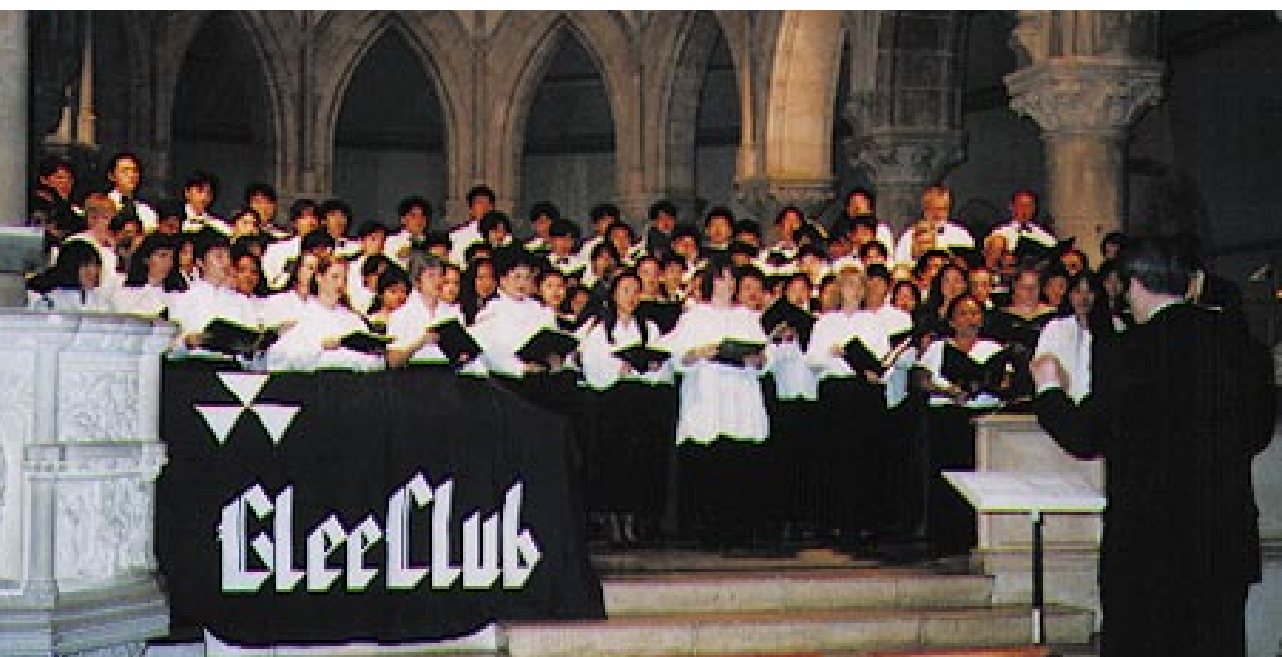
対し、先進国が支援の手を差し伸べていないかというは、十分過ぎるほどの支援を行っているそれは不釣り合いなくらい立派な橋や道路からも見て取れる。しかし、こうした支援が貧しい国の人々を救っていないこともまた事実であった。途上国の個別事情を目をつぶった形ばかりの経済援助は、先進国の自己満足に過ぎないのでは？「ギブ・ミー・マネー」を連発する人々に出会う度に僕の気持ちは沈んでいった。

一年五カ月、二万五千キロの旅を終え、今は社会への旅立ちの準備に追われている。就職活動は旅に似ていると聞いていたが、その通りだ。事前に綿密な下調べが必要なのも同じなら、いくら資料を目を通していても現実に訪問してみないとその実像に迫れないのも旅と同じだ。将来は、海外事業を展開するエンジニアリング企業が商社に就職し、もう一度貧困にあえぐ国々を訪れたい。ただ今度は旅行者としてではなく、インフラ整備に手を差し伸べられる企業人として……。

(談)



紀行・グリークラブ アメリカ演奏旅行記



▲ ハワイ大学との合同演奏会

私たち同志社グリークラブは、今春一月十七日より三週間アメリカ演奏旅行を行いました。この演奏旅行の目的は、アメリカの学生合唱団との交流を通して、彼らの音楽、また音楽に対する姿勢、さらに同じ学生としての考え方から何かを学ぼうというものでした。また校祖新島襄先生の足跡を訪ねて、同志社設立の精神を肌で感じる事も目的の一つでした。

なぜアメリカへ行くことと計画したのか？それには団員一人ひとりの中にある忘れられない演奏会の思い出があるからでした。

一昨年の六月アメリカのイェール大学グリークラブが来日し、栄光館において合同演奏会を行いました。その時の衝撃は私自身も忘れることができませんでした。彼らの美しく柔らかなハーモニー、そして本当に心の底から演奏を楽しんでいるのだという様子が客席にまでひしひしと伝わってきて、聴いている私たちまで楽しくさせてくれる、まさに聴衆と一体となった演奏が行なわれました。一方、私たちがこれまで求めてきた音楽のスタイルというものには、ある種武士道的な、苦しい練習に耐えて、喜びを見出すというようなものでしたから、正反対の演奏にももの凄いかかるショックを受けました。折しも私たちのクラブ内では自主性というものが団員のテーマ

としてあげられていました。そこでぜひともアメリカへ演奏旅行に行き、異郷の地においても二度自分自身を見つめ直すという団員共通の思いから計画の実行を決意しました。

一月十七日に関西国際空港を発した私たちは、はじめの一週間を過ごすアメリカ東海岸へと向かいました。この一週間は、イェール大学・アイモスト大学での演奏会をはじめ、新島先生ゆかりの地を訪ねるといふスケジュールでした。

イェール大学、アイモスト大学では素晴らしい歓迎を受けました。演奏会前に、キャンパス・ツアーやレセプション、演奏会の後には打ち上げパーティーを用意してくださり、私たちのつたない英語を相手に共に語らい、笑い、歌うという素晴らしい時を過ごすことができました。その中で私は、アメリカの学生は自立しているという印象を強く受けました。彼らは、会話の中で必ず「将来キミは何になるつもりなの



▲ 新島先生が学んだフィリップス・アカデミーにて——キャンパス内に建つ「良心碑」の前で

か？僕は会計士になりたいから商学部で学び、学費もローンを組んで自分で払っているのだ」と聞くのです。この質問に対してはしばしば私は答えに窮り、困りました。いかに自分が何も考えずに学生生活を送っていたのか、また二十歳ということだけで私は自立していると思っていたけれども、実際はまだまだ両親の厚い保護を受けている、こつた自分というものを客観的に見ることができ、自分の考えの甘さを反省することができました。

演奏会においても学ぶことがたくさんありました。たとえば、本番前のリハーサルの際のことです。われわれは通常、タイムスケジュールを作り、それにしたがって分単位に行動します。それに比べアメリカの学生は、まったくそのようなものを作らず自由に行動しています。確かに時間的にはわれわれの方が正確です。しかし、いったん指揮者が前に立つと、彼らは物凄い集中力を持って素晴らしい演奏を始めるのです。

私は、これを見た時に、「自由」とはやはり確固たる自己責任の上に成り立つものなんだと感じました。

私は、現在就職活動をしています。今日の日本の社会に必要なもの、私たち学生に欠けているものがこの一例によって見えてくるのではないかと思います。上から与えられたものをそのまま受け入れることによって高い評価を得る運動会や順位を決めないようにしようという馴れ合い的な平等主義、という中で育ってきた私たちにとって自己責任に基づいて自分の頭で考え行動するといったことが、いかに難しいことであるかがわかります。金銭ヒッグバンなどといわれていますが、まさしくこの問題が大きく関係しているのではないかと思います。今回の演



▲ 96年6月に栄光館で行われたイェール大学とのジョイント・コンサート

この年、イェール大学グリークラブは創部135周年を迎え、コンサートには同志社女子大学メサイア研究会や神戸女学院の合唱団も友好出演した。



同志社グリークラブ・前幹事長
中村 慎吾さん

【法学部法律学科】4年次生

奏旅行で、新島先生ゆかりの地を訪ねる中で同志社精神というものに触れることができました。が、先生は遺言の中で「個體不屬てきこつふき」といって「誰にも動かされない自分の考えを持つことの大切さ」を説いておられますが、ちょうど今の私たちにとってもっとも意味の深い言葉であると思います。

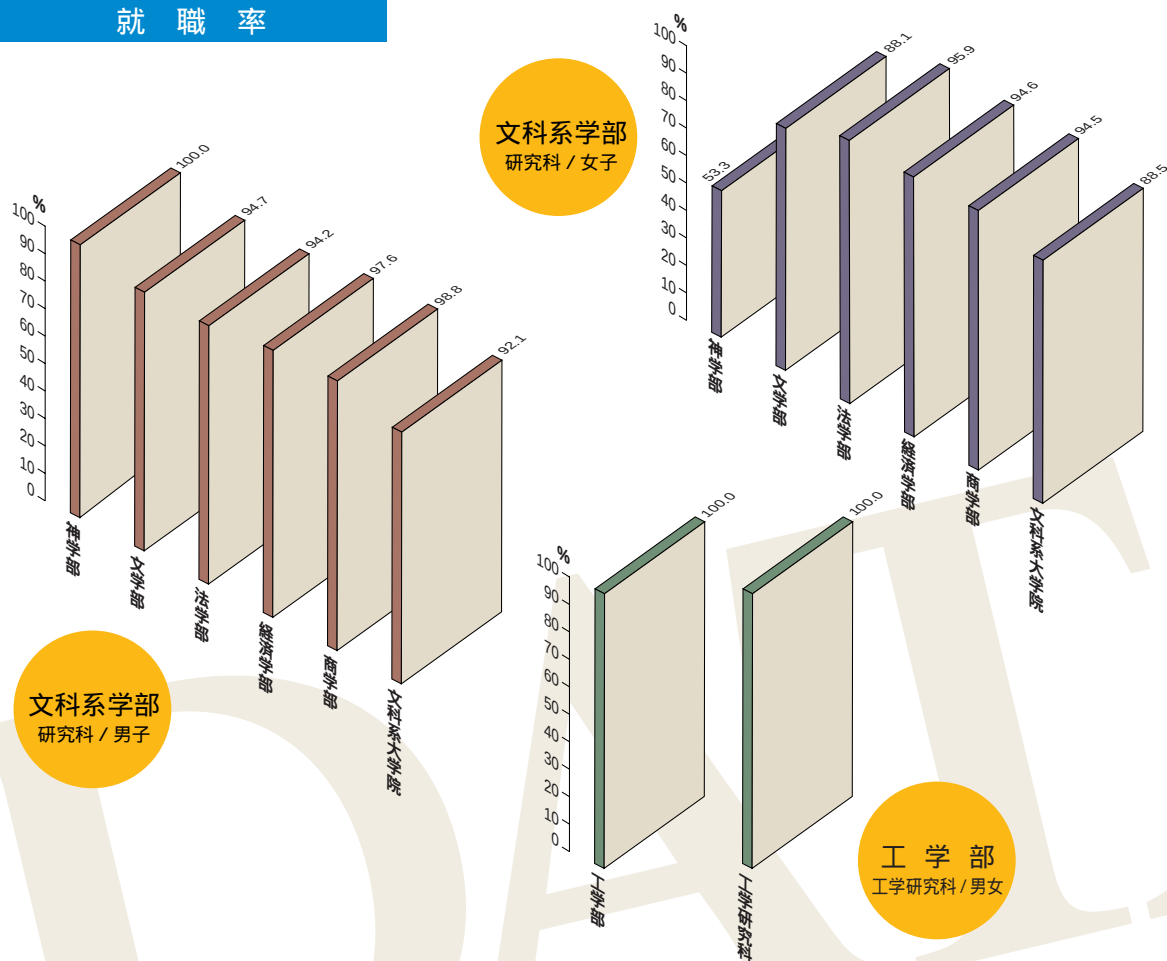
今回の演奏旅行を通して、多くの素晴らしい経験をする事ができ、また自分たちの姿を客観的に見ることができたことは、これからの人生においての大きな財産になるでしょう。

最後に、今回の演奏旅行に尽力くださいました先輩方、大学関係者の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

データでみる同大生の 1997年度 就職戦線

一部上場企業の倒産が続いたにもかかわらず、97年度の就職状況は安定して推移。メーカー・製造業が採用意欲を高め、本学の学生もこれらの業種で多くの内定を得ました。また、海外でも、知名度の高い企業が就職先の上位を占めています。これから活動にのぞむ人たちも、自分の適性と将来を見据えた就職活動を行ってください。

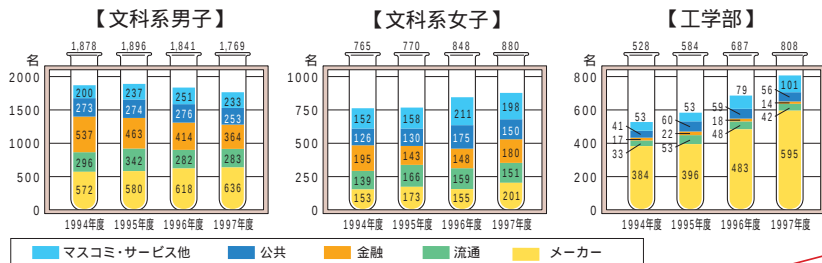
就職率



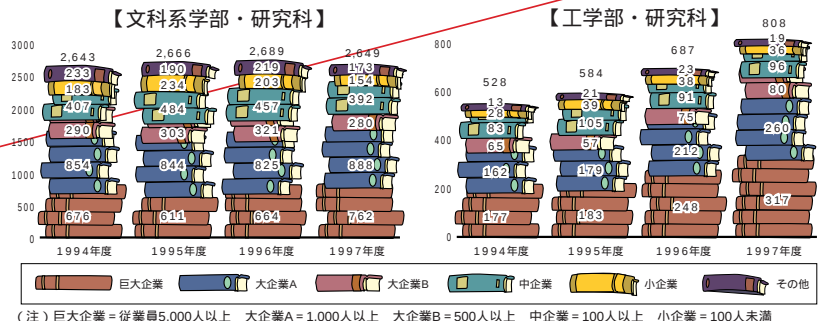
■ 主な就職先と人数 ■ 会社名 [人数]

日本アイ・ビー・エム [35人] 松下電器産業 [29人] デンソー 日本電信電話、国家公務員 [1種] [各27人] 三和銀行 [23人] 南都銀行、国税専門官 [各21人] 東京海上火災保険 [20人] ローム、ダイエー、安田火災海上保険 [各18人] 三菱電機 [17人] イズミヤ、京都銀行、野村證券 [各16人] キーエンス、高島屋、日興證券 [各14人] 積水化学工業、三洋電機、トランスコスモス [各13人] 京セラ、日立製作所、松下電工、大丸、全日本空輸 [各12人] トステム、富士通、大和銀行、大和証券、日本通運 [各11人] 旭化成ホームズ、三井ホーム、シャープ、日本電気、三菱重工業、大塚商会、富士銀行、第一生命保険、日本交通公社、住信コンピュータサービス [各10人] 積水ハウス、プロクター・アンド・ギャンブル・ファーマー・イースト・インク、三田工業、トヨタ自動車、本田技研工業、キヤノン、タカラスタンダード、滋賀銀行、第一勧業銀行、京都信用金庫、日本生命保険 [各9人] 大和ハウス工業、大日本印刷、村田機械、沖電気工業、日産自動車、堀場製作所、オービック、サークルケイ・ジャパン、あさひ銀行、さくら銀行、住友銀行、安田生命保険、商工ファンド、第二電電、ノヴァグループ、京都市職員 [各8人] サントリー、宝酒造、読売新聞大阪本社、凸版印刷、村田製作所、タイハツ工業、ヤママティーズ、トラスコ中山、サンゲツ、住友信託銀行、西日本旅客鉄道、電通 [各7人] 帝人、東レ、朝日新聞社、積水樹脂、小林製薬、ワイケイケイ、クボタ、オムロン、ソニー、東京エレクトロニクス、島津製作所、ミノルタ、トーマン、近鉄百貨店、ジャスコ、生活協同組合コープこうべ、ローソン、日本マクドナルド、十六銀行、東京三井銀行、北陸銀行、京都中央信用金庫、ジェシービー、大阪ガス、同志社大学、エヌ・ティ・ティ・データ通信、日本電子計算、メイテック、パナソニック、京都府職員 [各6人] 一条工務店、大林組、旭化成工業、京都新聞社、ベネッセコーポレーション、大日本インキ化学工業、神戸製鋼所、フジテック、東芝、富士通テン、ホシデン・フィリップス・ディスプレイ、日立造船、マツダ、三菱自動車工業、オリンパス光学工業、大日本スクリーン製造、日本ビュレット・バックカード、日本エヌ・シー・アル、百五銀行、東洋信託銀行、国民金融公庫、明治生命保険、住友海上火災保険、エヌ・ティ・ティ・関西移動通信網、山九、日本航空、住商情報システム、日立情報システムズ、アンダーセンコンサルティング、オリックス、住銀リース、愛知県職員、大阪市職員、兵庫県職員、和歌山県職員 [各5人] タキイ種福、住友林業、日本食研、住友化学工業、東洋インキ製造、花王、萬有製薬、日本特殊陶業、エヌ・ティ・エス、テス・エンジニアリング、豊田自動織機製作所、日本オーチス・エレベーター、イビデン、日本電産、リコー、アイシン精機、石川島播磨重工業、川崎重工業、タカラベルモント、森森工業、伊藤忠商事、長瀬産業、川鉄商事、ユアサ商事、興和、ライフコーポレーション、上新電機、紀陽銀行、全国信用金庫連合会、オリエントコーポレーション、住友クレジットサービス、セントラルファイナンス、国際証券、和光証券、タイセイ・コモディティ、大同生命保険、富士火災海上保険、日栄、エー・エス・エー・スカイパル、東海旅客鉄道、日本旅行、関西電力、京産 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションウェア、オムロンソフトウェア、ダイワボウ情報システム、日本コンピュータ・システム、ニッセイコンピュータ、松下システムテクノ、デロイトトーマツコンサルティング、三菱電機エンジニアリング、日本リース、大阪府職員 [各4人] その他

■ 業種別内定状況 ■

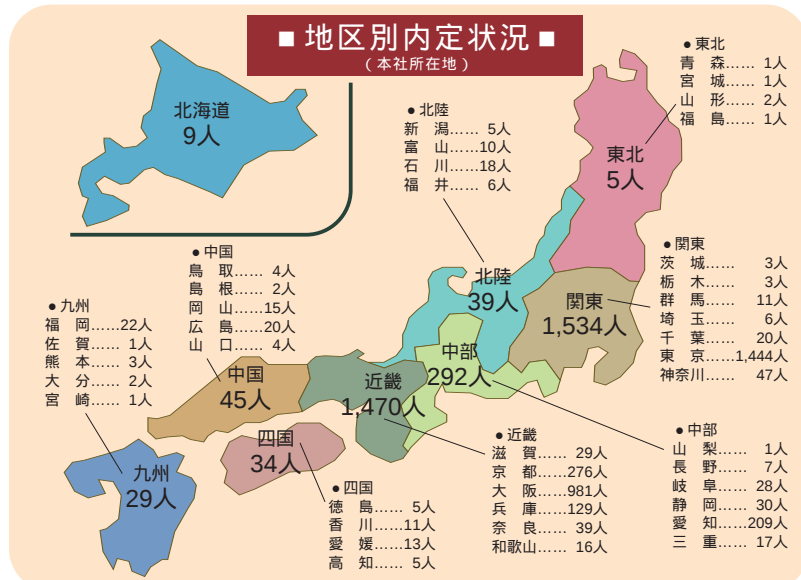


■ 規模別内定状況 ■



■ 地区別内定状況 ■

(本社所在地)



1998年度 大学予算について

財務部 経理課

本学はこれまで大学院の充実、国際交流の充実、昼夜開講制の実施、さらに1998年度からセメスター制への移行など教学基盤の整備充実に取り組んできました。来るべき21世紀においては、国際的評価に耐えうる同志社大学として、質の高い教育研究を実現していくために、教学体制の整備、教育研究条件の整備充実を推し進めなければなりません。1998年度予算編成においては、とくに大学院研究の高度化推進および学部・研究科の情報化推進を図るための新規予算の計上、学術研究資料の電子化および情報公開に係る予算の計上、プレゼンテーション設備教室の整備、ラーネード記念図書館のパソコンコーナーの設置など教育研究条件の一層の充実を図るため重点的な予算を編成しています。また、建設事業においては、田辺別館および多目的ホールの増改築、講武館の小教室整備などの施設設備の整備をおこないます。一方、経常的経費については前年度予算を基準として計上し、管理経費については極力節減するものとし、教育研究水準の維持向上をはかるため、限られた財源の重点的、効率的な予算計上をおこなっています。

●収支予算について （表1）

収入面では、学生生徒等納付金については、学費の漸増により一定の増収を見込むことができますが、手数料については、近年の入学志願者数の動向および多様な入学試験実施による検定料単価にあわせて入学検定料の収納見込み額を減額計上しています。寄付金については、当初より見込まれる教育研究施設整備資金募金のみ予算計上しています。また、補助金については、前年度に比較して、学術フロントティア推進事業に係る補助対象設備の整備完了にともない収入が減少となっています。借入金収入については、田辺別館の増改築等の建設事業費相当額を新規借入しています。以上により、収入の部合計は283億円となります。

支出面では、人件費については、教員の充実を図るため実質増員が可能となる予算措置をおこなっています。教育研究経費・管理経

費・施設関係支出・設備関係支出および基本金組入額に係る事業内容は事業別予算のとおりです。借入金返済支出については、償還計画にもとづく私学事業団借入金返済分のみ計上し、その他の借入金については返済の繰延べをおこなっています。なお、予備費については、期中の新規事業等に対応するため増額計上しています。以上により、支出の部合計は274億円となります。

以上の結果、1998年度消費収支差額は、9億円の消費収入超過額となる見通しです。これにより、次年度以降の消費支出に充てる支出準備金に1億円を繰入後、翌年度への繰越消費支出超過額は8億円減少し151億円となる見通しです。

●事業別予算について （表2）

支出項目に係る主な事業内容は次のとおりです。

1 教育研究費

研究費は、学部・研究科における研究室研究費、個人研究費、学術資料整備充実費、学術奨励研究費、新規計上の高度化推進特別経費など研究活動に係る経費です。

研究所経費は、人文科学研究所、理工学研究所、アメリカ研究所の研究活動に係る経費です。

実験実習費は、工学部、文学部文化学科心理学専攻の実験実習に要する経費です。

教育研究援助費は、学部・研究科の教育研究助成費、教学充実費、授業運営費などが主なものです。

情報処理教育研究費は、大型計算機・学術情報ネットワーク・マルチメディアシステム等の賃借料、情報処理機器の取得費、新規計上の情報化推進特別経費など情報処理教育に係る経費です。

学術情報整備充実費は、図書館の図書資料およびマルチメディア資料購入費のほか、学術研究資料のデジタル化、利用環境整備などに係る経費です。

国際交流関係費は、学術交流協定校との留学生の受入・派遣に対する奨学金、客員教員・留学生のハウス運営費、サマープログラム実

施など国際交流に係る経費です。

2 学生経費

奨学援助費は、学部・大学院奨学金、第2部・夜間主コース奨学金などの給付奨学金が主なものです。

学生生活助育費は、課外活動援助、就職活動援助、学生健康管理、学生災害傷害保険など授業以外の学生生活に係る経費です。

3 施設・設備整備充実費

教室、課外施設の改修およびプレゼンテーション設備教室の整備など施設設備の整備充実に係る経費です。

4 施設・設備維持管理費

冷暖房運転、守衛、清掃等業務委託をはじめとする施設設備の維持管理に係る経費です。

5 維持運営費

光熱水費、電信電話料、借地料などの経費です。

6 一般管理費

ホームページ充実をはじめとする情報公開および広報誌発行など大学共通の業務運営費に係る経費です。

7 特別事業費

建設事業費として、田辺別館および多目的ホールの増改築、講武館一階の小教室整備、有徳館西館の実験室整備、その他の事業費として各建物の防災対策、冷暖房設備、就職インターネット室の整備などを計上しています。

8 法人経費

理事会、役員などの法人業務に係る経費および厚生施設に係る経費などです。

9 基本金・準備金

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

組入計画にもとづき、第2号基本金に教学施設整備資金を、第3号基本金に国際交流基金、学部教学充実基金、学術奨励基金などを計上しています。

（本文中の金額については1億円未満を四捨五入しています）

■1998年度収支予算書 (表1)

(単位:千円)

収入の部				
科目	予算	前年度予算	増	減
学生生徒等納付金	21 642 810	21 012 170	630 640	
手数料	1 184 000	1 474 000	290 000	
寄付金	154 000	457 620	303 620	
補助金	2 167 770	2 312 050	144 280	
資産運用収入	589 700	607 730	18 030	
事業収入	95 160	93 160	2 000	
雑収入	731 750	821 430	89 680	
繰出金	5 340	9 270	3 930	
分担金	171 260	166 830	4 430	
帰属収入合計	(26 741 790)	(26 954 260)	(212 470)	
第2号基本金取崩収入	100 000	0	100 000	
当年度固定資産除却額	400 640	303 770	96 870	
前年度基本金組入繰繰延額	5 690	0	5 690	
借入金等収入	1 040 000	361 820	678 180	
基本金繰入額・当年度組入額計	(1 546 330)	(665 590)	(880 740)	
特定支出準備金取崩額	61 690	51 220	10 470	
収入の部合計	[28 349 810]	[27 671 070]	[678 740]	

支出の部				
科目	予算	前年度予算	増	減
人件費	13 635 740	13 371 650	264 090	
教育研究経費	8 034 540	7 837 460	197 080	
消耗品費他	5 527 430	5 378 210	149 220	
減価償却額	2 507 110	2 459 250	47 860	
管理経費	844 260	890 360	46 100	
消耗品費他	757 080	803 290	46 210	
減価償却額	87 180	87 070	110	
借入金等利息	385 770	340 520	45 250	
徴収不能引当金繰入額	49 100	42 850	6 250	
予備費	200 000	70 000	130 000	
消費支出合計	(23 149 410)	(22 552 840)	(596 570)	
施設関係支出	965 000	246 130	718 870	
設備関係支出	967 220	1 228 750	261 530	
翌年度基本金組入繰繰延額	10 810	5 690	5 120	
借入金等返済支出	632 310	635 710	3 400	
第2号基本金組入額	1 000 000	1 210 000	210 000	
第3号基本金組入額	633 090	670 650	37 560	
第4号基本金組入額	49 100	36 100	13 000	
基本金繰入額・当年度組入額計	(4 257 530)	(4 033 030)	(224 500)	
特定支出準備金繰入額	32 270	237 220	204 950	
支出の部合計	[27 439 210]	[26 823 090]	[616 120]	

収支差額の部				
科目	予算	前年度予算	増	減
当年度消費収支差額	(910 600)	(847 980)	—	—
消費支出準備金繰入額	100 530	58 460	—	—
消費支出準備金取崩額	0	0	—	—
繰入調整後消費収支差額	(810 070)	(789 520)	—	—
前年度繰越消費収支差額	[15 992 010]	[16 781 530]	—	—
翌年度繰越消費収支差額	[15 181 940]	[15 992 010]	—	—

■事業別予算書 (表2)

(単位:千円)

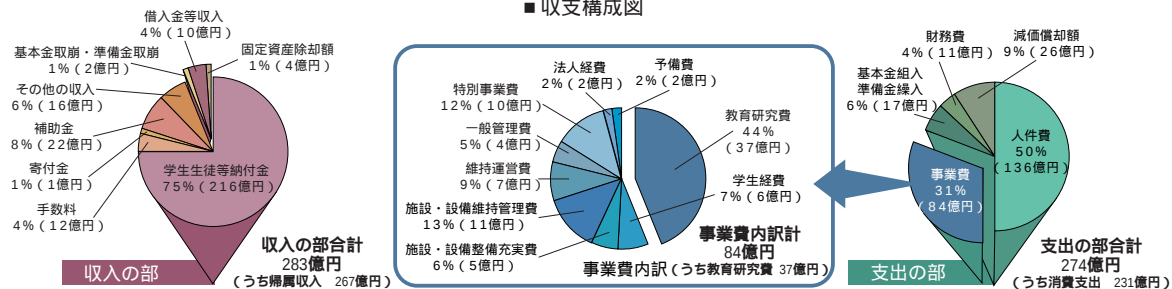
事業別予算書	
事業項目	予算額
人件費	(13 635 740)
事業費	(8 416 730)
基本金・準備金	(1 725 270)
財務費	(1 067 180)
減価償却額	(2 594 290)
支出の部合計	[27 439 210]

事業費内訳	
事業項目	予算額
教育研究費	(3 687 721)
研究費	1 038 582
研究所経費	143 174
実験実習費	558 112
教育研究援助費	278 739
情報処理教育研究費	701 826
学術情報整備充実費	303 890
国際交流関係費	101 074
入学試験経費	349 929
教学事務運営費	212 395
学生経費	(591 422)
奨学援助費	328 181
学生生活助育費	193 761
学費	69 480
施設・設備整備充実費	(463 614)
施設・設備等整備充実費	463 614
施設・設備維持管理費	(1 070 152)
施設・設備等維持管理費	1 070 152
維持運営費	(753 165)
通信費・光熱水費	753 165
一般管理費	(454 095)
一般管理費	394 575
教職員福利厚生費	59 520
特別事業費	(1 035 000)
田辺別館・ホール増改費	740 000
講武館一階小教室整備	130 000
有徳館西館実験室整備	95 000
その他の建設事業費	70 000
法人経費	(161 561)
予備費	(200 000)
事業費小計	[8 416 730]

基本金・準備金内訳	
事業項目	予算額
第2号基本金組入額	(1 000 000)
教学施設整備資金	1 000 000
第3号基本金組入額	(633 090)
同志社大学奨学基金	530 000
学部教学充実基金	50 000
学術奨励基金	50 000
指定奨学基金	90
新島基金	3 000
第4号基本金組入額	(49 100)
翌年度基本金組入繰繰延額	(10 810)
特定支出準備金繰入額	(32 270)
基本金・準備金小計	[1 725 270]

財務費内訳	
事業項目	予算額
借入金等返済支出	(632 310)
借入金等利息支出	(385 770)
徴収不能引当金繰入額	(49 100)
財務費小計	[1 067 180]

■収支構成図



女子トイレの改善工事

女子トイレでの安全対策のため、今出川キャンパス内の各女子トイレに痴漢防止の威嚇ベルや、各ブースの上下隙間にハカマを設置するなどの改善工事を行いました。また、障害者用トイレには呼出応答設備（ただし、通話機能はありません）の設置工事を進めています。



「熊本バンド」とは？

明治の初め、熊本洋学校でアメリカの軍人L.L.ジェーンズの感化を受けてキリスト教に入信した青年の団。W.S.クラークの「札幌バンド」、J.H.バラの「横浜バンド」と並んで、日本のキリスト教三源流のひとつといわれる。

1876年1月、熊本洋学校の学生有志は、キリスト教によって人心の改革をはかろうと熊本の花岡山に登り、キリスト教信仰の誓約書を交わすが、このことが知れわたり、誓約に参加した青年たちは家族からも迫害を受け、洋学校は廃校に。青年たちはジェーンズの依頼で開校直後の同志社にあずけられることになった。1879年に同志社を卒業した第1期生15人は、全員が熊本バンドであった。新島を手にこすられた奔放不羈な彼ら熊本バンドではあったが、しかし一方で、徳富蘇峰、金森通倫らを中心に、新島の同志社大学設立運動を助け、同志社の自由な校風をつくっていく。歴代総長（当時は社長）を見ても、小崎弘道（第2代）横井時雄（第3代）、下村孝太郎（第6代）原田助（第7代）海老名弾正（第8代）と、昭和に至るまで、この熊本バンドの出身、またはゆかりの英傑たちが名を連ねる。



「熊本バンド子孫の会」 東京に集う！

去る5月1日、東京虎ノ門のホテル・オークラ本館2階「松風の間」において、「第2回熊本バンド子孫の会」が開催され、第1回（昨年5月2日開催）を上回る16家族、54人が集い、親睦を深めた。子孫の会は、キリスト教を奉じて結盟した祖父、曾祖父たちの研究を通じて、互いの親睦を深め、信仰を継承していこうと開催されたもので、今回は熊本バンド研究の第一人者である杉井六郎同志社大学名誉教授を招いて、歴史の実証談義に盛り上がった。とくに杉井氏が「熊本バンドの輝き」と題する講演の中で、森田家が所蔵する結盟時の記念写真を披露。森田久万人（熊本バンドの一人で、同志社に学びのちにイエール大学に留学。同志社神学校教頭）が写真裏に克明に記した氏名から熊本バンドの同志とその肖像があらためて確認された。



講演後は、参加した16家族が順にスピーチを行い、各家に伝わる話と史実のすり合わせなど、話題は時に微に入り細にわたりながら、熱気を帯びたものになった。今回初めて参加した人も多く、第6代社長下村孝太郎の唯一の子孫の智恵子さんは、自分で下村家が絶えることを惜しみながらも、祖父ゆかりの子孫に囲まれ、話題が尽きぬ様子。森田久万人を慕って同志社に入学、後に第7代社長を務めた原田助の子孫の方々など、熊本バンドに続く世代の子孫の出席も見られた。徳富猪一郎（蘇峰）の次女で、92歳になる矢野鶴子さんは「お話しに出てくる方々の顔が、まるで昨日のことのように思い出されます」と在りし日を懐かしんでいた。

またオブザーバーとして出席された熊本県立大学の田中啓介教授からは、同志社卒業後、イエール大学で学んだ熊本バンドの活躍が紹介された。うち森田久万人、市原盛宏は博士号を、浮田和民は修士号を取得。森田はその後イエール大学の専任講師も務めたという。田中教授の話では、おそらく海外の大学で教鞭をとった最初の日本人ではなかったかという。

3時間に及ぶパーティは、盛会のうちに、来年4月30日に再会を約束して幕を降ろした。



慶應義塾大学・青山学院大学 ゼミ交流会からの成果 太田進一ゼミ生 「第13回電気通信 普及財団賞」を受賞

本誌NO.113(1997年12月1日発行)で紹介した商学部・太田進一ゼミから「第13回電気通信普及財団賞」受賞論文が誕生した。同財団が公募した懸賞論文に多数の論文が寄せられた中、同ゼミ生産管理班の論文が佳作を受賞。他大学からは大学院生の応募がそのほとんどを占めた中、堂々の学部3年次生(現4年次生)による受賞であった。

論文のテーマは『中小製造業におけるCIM構築—速さによる優位の確立』。ゼミ生は中尾真由子さん、壺内博志さん、柏木隼人さん、鈴鹿智之さん、鈴木宏美さん、境竜介さん、谷本晃英さんの7人。今回の受賞について生産管理班代表の中尾さんは「昨秋の慶應義塾大学・青山学院大学とのゼミ交流会がバネになりました」と話す。受賞した論文は、応募に先だって9月初旬に行われた他大学とのゼミの交流会で発表。その席で、他大学の先生方からの鋭い反論や容赦のない意見をぶつけられたとか。「その夜は悔し涙で眠れませんでした」という。この屈辱をバネに9月末日の懸賞論文の応募締切りまで、論文の手直しと、とりまとめに奔走した。

太田教授は「受賞の鍵は、中小製造業におけるCIM導入率6~7%という現実に対して、その優位性を考えるという一見無謀なこの研究テーマにあえて取り組み、E-mailなどを活用して、中小企業診断士やシステムエンジニアら現場の方々の意見を収集して、ロジックを強化した点にある」と分析。さらに「夏休みのほとんどを論文に費やし、しかも交流会では未だ経験したことがないような手厳しい

指摘を受けて、なお奮起する力があつたことに正直驚いています」とゼミ生の成長に目を細める。

ホームページを リニューアル!

授業情報をホームページで見よう!

本年4月に同志社大学ホームページを更新しました。授業情報として、この先1週間の休講情報を校地、曜日別にお知



らせるとともに、本年度開講科目の講義概要・シラバスを担当者名、科目名、キーワードなどの検索語で全文検索できます。

また、学部・研究科や就職などに関する情報も充実しました。

その他、本ホームページには学生生活をもっと豊かにするためのヒントがいっぱい詰まっています。必要に応じてアクセスし、最新の情報をキャッチしてください。

<http://www.doshisha.ac.jp>

ラーネッド 記念図書館に パソコンコーナー を新設しました

情報化社会の現代、情報は多種多様な媒体で提供されています。インターネットやE-mailを通じて、情報の検索や交換を行うことも学生生活の一部となっています。

学術情報センターでは、このような状況に

対応するため、昨年、今出川図書館にパソコンコーナーを開設いたしました。本年はラーネッド記念図書館にも新設いたしました。

1階に32台、2階に12台のパソコンと1台のプリンタおよび15台の貸出用ノートパソコンを用意しています。

パソコンは埃や水分に大変弱いものです。喫煙や飲食は厳禁です。また、みなさんと共有して利用するものですから、誰もが、いつでも、同じ環境で利用できるように、ゆずりあい、大切に利用してください。

開設時間(開講期)
月~金曜日 9:00~19:30
土曜日 9:00~15:30
休講期は変更があります。



Neesima Room展示

「新島 襄のキリスト教伝道」展

- 期 間 4月1日(水)~7月11日(土)
- 場 所 Neesima Room
(今出川校地・ハリス理化学館2階)
- 時 間 月~金 9:30~17:00
土 9:30~12:00
日曜・祝日は休室

【公開講演会】

- 日 時 6月13日(土)
13:00~14:00
- テーマ 「新島 襄の地方伝道」
- 講演者 同志社大学名誉教授 竹中 正夫
- 場 所 今出川校地・至誠館3番教室

お知らせ

第17回 外国文化週間 “躍動するアジア”

■期 間 6月15日(月)～26日(金)

■会 場 田辺キャンパス

■入場無料 一般公開

■主 催 言語文化教育研究センター

●講 演

6月16日(火)	「アジア音楽の世界」	櫻井 哲男(阪南大学教授)	恵道館202番教室 / 15:00～
6月19日(金)	「中国漢民族の伝統音楽」	小林 幸男(京都教育大学助教授) [演奏] 葉 衛陽・邱 迅	
6月23日(火)	「西ジャワ伝統音楽の現在」	福岡 正太(国立民族学博物館助手)	
6月25日(木)	「カンボジアのボランティアを語る」	内田 弘慈(華厳宗大律師・拓本家)	恵道館301番教室 / 15:00～

●写 真・拓本展

6月23日(火)～26日(金)	「カンボジアの拓本画と写真展」	内田 弘慈 (華厳宗大律師・拓本家)
		ラウンジ棟2階201会議室 / 10:00～16:00

●映画祭

6月15日(月)	「サザン・ウィンズ」	知真館2号館202番教室 / 13:15～
6月18日(木)	「ニヤム」	知真館1号館232番教室 / 13:15
6月24日(水)	「蝶と花」	知真館2号館202番教室 / 13:15
6月26日(金)	「目覚めよマルハ」	知真館2号館202番教室 / 13:15

アッセンブリー・アワー

6月5日(金)	「新宗教の魅力と21世紀の宗教」	講師 / 大林 浩 (ラトガース大学宗教学教授・本学客員教授)	田辺 ラウンジ棟201会議室 / 15:00～16:30
6月11日(木)	「写心気 40」	講師 / 立木義浩(写真家)	

同経会寄付講座

6月5日(金)	「私の経営観」	福原 義春 (株)資生堂会長	今出川 明德館21番教室 / 16:45～18:15
6月12日(金) 19日(金)	「海外進出した日本企業の課題」	平林 克敏 住友ゴム(株)専務取締役	
6月26日(金) 7月3日(金)	「生協運動の実践的視点と21世紀ビジョン」	竹本 成徳 生活協同組合コープこうべ理事長	

課外ゴルフ(ラウンド講習)の募集

「安全な運動のしかた」や「トレーニング効果に関する知識の習得」などを目的に、卒業単位と関係なく課外体育を実施しています。その中で、秋に実施予定のゴルフにつきまして概要をお知らせします。参加者はゴルフラウンド経験者、もしくは本学のゴルフ担当教員が許可した者で、11月17日の説明会に参加することなどが条件となります。費用面なども考慮して参加してください。



- 期 日 11月25日(水)
- 場 所 比良ゴルフ倶楽部(ＪＲ湖西線堅田駅下車)
- 参 加 費 15,500円程度
(グリーンフィー、キャディーフィー・昼食代など含む)
- 申し込み 11月13日(金)まで 先着34人

●詳細は掲示板、もしくは体育係(田辺:盤上館1階)・教務課(今出川:弘風館1階)でお問い合わせください。

プール学内一般開放のお知らせ

大学のプール(田辺校地・屋外)を下記の期間一般開放しますので、ご利用ください。

- 期 間 1998年8月3日(月)～31日(月)
但し、8月10日～14日及び土曜・日曜は除く

- 時 間 13:00～16:00
- 料 金 1人1回300円
- 対 象 同志社諸学校の学生・生徒及び教職員(家族を含む)
学生証を必ず持参してください。

私は一九九五年の桜の花が咲きこぼれる頃、留学生としてこのきれいで活気に満ちた日本に足を踏み入れた。日本人に「日本のことをどう思いますか」とよく聞かれる。中国にいる時は、日本のことは新聞やテレビくらいでしか知らなかった。視野も狭く、日本のよい所に接する機会もなかった。日本で生活してみても、新しい都市づくりと同時に、古い文化もよく保存されていることに感心した。特に日本の悠々たる歴史とすばらしい伝統文化を持つ古い都は日本文化を知りたい私にとっては、豊かな宝庫。京都に来てよかったと思う。しかし、日本より長い歴史を持つ中国は、七十年代の「文化大革命」の頃、閉鎖的かつ激動的な情勢下で、古い伝統と文化はさまざまに破壊されてしまった。最近の十年の間で、経済力が高度に発展し、近代的な都市をつつた。しかし、昔から流れ続けている古い文化や伝統的な祭りなどがなかなか見られなくなってしまう。非常に残念なことだと思つた。

私は今、長い伝統を持つ同志社大学で学んでいる。ヨーロッパを思わせるレンガづくりの学舎が並ぶキャンパスで……。私が抱いていた百二十余年の歴史を持つ大学のイメージがそこにあった。近代化を進める中国が見失いつつある何かがあった。専攻も、多くの中国人留学生が学びたがる経済学や経営学ではなく、心理学を選んだ。臨床心理学への関心が高かったこともあるが、中国では心理学がこれからの科目だから、そして経済的な発展はかりに目を奪われなくなつたから。

中日両国においては、昔から文化交流が行われているので、その背景と発展の過程では

異国で知る、 伝統文化の素晴らしさ

PROFILE

ミン ウェイ
関 微さん

【文学部文化学科心理学専攻】 3年次生（同志社中国留学生会会長）

1995年来日。1年間の日本語研修をへて同志社大学文学部に入学。将来は大学院へ進み、臨床心理学の研究を深めたのち、故郷上海の社会科学学院で働きたいという。

似通つたところが多い。しかし、長い間の受容と変容によつて、それぞれの独自性も示している。賑やかな新宿を歩いていると、大都會の躍動を感じ、輝いている金閣寺に参拝すると、長い年月を積み重ねた古い文化財がこんなに大切に保護されていることに驚く。私はこの異国の広い文化の大海で、様々な養分を吸い取ったおかげで、自分の人生目標を達成する自信と力を得たような気がする。もちろん、留学生生活は思つた通りに順調に行くわけではなかった。学費と生活費に困つて国に帰らうと考えたこともある。けれども、その時、自分の目標を忘れてはいけない、人生に挑戦しよう、困難を乗り越え、自分に打ち克つんだと言ひ聞かせた。

留学して三年が過ぎて、今までの留学生生活を振り返ってみると、様々な喜びや悲しみがあつて、私にとっていい経験といふチャンスを与えてもらったと思つた。



本物の法律学に出会いたくありませんか？



田井 義信

【法学部教授】

一九四六年生まれ。同志社大学大学院法学研究科私法学専攻修士課程修了。ハーバード大学ロー・スクール等に留学。博士（法学）。最近の著書・論文に、『イギリス損害賠償法の理論』（有信堂・一九九五年）、「制裁的賠償説」古賀山本編、『現代不法行為法学の分析』（有信堂・一九九六年）、「求償」國井和郎編、『新・現代損害賠償法講座4』（日本評論社・一九九七年）などがある。

疑問や批判の精神を忘れた法律の学習は空しい

二〇〇数年、大学院（前期課程）で佐藤義彦教授と共同で「判例研究」の科目を担当している。また評釈等の出ていない最新の最高裁判決を素材にして、一人の院生が報告と質疑応答に約九十分間持ちこたえなければならぬことになっているが、最近は報告用のレジュームは必要ないほど詳しく長いのに、判決には結論・理由付けとも賛成する報告者が非常に多くなった。逆に教員の方が疑問を呈することがよくある。

法学部の三年ゼミ・四年ゼミもだんだん変わってきた。判例や学説をヒントに私が作成した問題を配布して担当班が基本的整理をし、その後に起立討論方式で検討しているが、判例や多数説の支持者が非常に多い私の著書や論文のある分野では突然私に賛成する者もかなり出現してきまう。その理由は私のゼミが各学年十七、八人の零細ゼミであるためと割り切つてしまふわけにはいかないようである。

このような現象はなぜ最近特に顕著になってきたのであろうか。推測にすぎないことをお断わりした上で私なりの判断を述べよう。まず、大学受験競争が行き着くところまで成熟し、都市・農村を問わず受験に直結しないもの（文学、哲学、数理系書物、各種の古典など）の高校での読書量が激減していること、本学で

も一年次から専門学校などに通うダブル・スクール派が増殖して受ける身の予定消化勉強が染み付いていること、試験モクラーブも恋もアルバイトも同時に追求してそれに能力や体力が追いつかないこと、高校までの記憶偏重教育の弊害が育った環境の影響が、現実や世俗的権威に対して疑問や批判をする意識が非常に希薄であることなどが考えられよう。詳述する紙面がないので結論だけ述べるが、学問とはすべてを疑うことから始まるものであり、大学生たるもの世俗的権威などに怯んでいる場合ではない。また、法律学は社会病理を扱うものであり、広い一般教養と人間に対する深い洞察力・強い正義感がない者には適しない。受験予備校でヒトオを見るだけで、しかも一般教養はむしろん法哲学・法制史・当該法律の沿革の勉強までも省略して、判例や多数説に無批判に迎合する処世術を学ぶ人の合格率は本当は高くはない。このことは、いわゆる有名大学生ほど合格率が高いこと、私のゼミでもこれまでの司法試験全合格者十七名中、ゼミ論文等の手を抜かずそれが優秀で学生論集等に載つた者（本物の法律学と出会った者）が十九名を占めていることなどからも容易に論証できる。法律学は他人とデイベートすることによって論理と体系が磨かれるものであり、暗記力だけではなく推理力と判断力が強く求められ、人生如何に生きるべきかを各人に迫る「大人の学問」であることをぜひ理解していただきたい。

妥協から最適化へ。
発想の転換が求められる人生設計

就職委員をしていると学生からいろいろな相談や困った依頼が毎日飛び込んでくる。就職する会社なんていくら考えても、結婚相手の選択やマンションの購入などと同じで、自分の希望通りになる部分と、どうしてもならない部分があつて、最後はフィーリング（感性）で決めるしかないよ、と言つただけで、学生たちは納得しないようだ。大事なことは、自分の感性を信じることであり、もつとつは選んだ道で環境を良くしてゆく努力をすることだろ。

数理的な最適化問題では与えられた目的関数の最小（大）値をある制約条件の下で求める。従来は局所的な勾配の情報に基づき最適解を探索する方法が主流だったが、こうした方法で解くのが困難な複雑な最適化問題では遺伝的アルゴリズム（GA）などの新しい方法が用いられている。筆者はこのGAの母集団を分割した分散並列GAの研究を行っているが、そこで得られた結論は

「1」複雑な問題ではGAのように過去の経験とある程度のランダムさを混ぜた探索戦略が有効であること
「2」分割した母集団での探索の結果を総合した方が大きな単一母集団より良い解を生み出すことである。

これを人生設計の最適化に当てはめれば次のようになるだろ。

「1」細心の注意と努力に加えて、適度ないい加減さを混ぜて進むべき道を決める

「2」別の自分（異なった集団での）や他人から得られる最適解を組み合わせる

やっぱり決断の最後はフィーリングに任せるしかないだろ。そして決断したら、あとは他で得られた最適解を組み合わせる、すなわち他の場所で最適解となっている解と環境を一部取り込むことで現在の解の環境を変え、最適解に近づくことができる。脱出困難な局所最適解に陥った人間が別人間として生まれ変わることは難しいが、その場所を大域的最適解の場所に似せることで大域的最適解に事実上ワープできることがわかる。そのために他他の最適解を知ることが必須であり、広範囲の人間のネットワークがそれを可能にしてくれる。



三木 光範

【工学部知識工学科教授】

一九五〇年生まれ。同志社大学工学部卒業。大阪市立大学大学院博士課程修了。工学博士。金沢工業大学、大阪府立大学などを経て九四年より現職。米国コロロンビア大学およびバジニア工科大学の客員研究員、文部省宇宙科学研究所客員助教授など併任。最近の著書は「工学問題を解決する適応化・知能化・最適化法」（技報堂出版）、「団塊世代はなぜインターネットが苦手か」（講談社）など。



人生設計の最適化の試み



三宅 威仁

神学部助教授

『ラスト・ショー』

監督…ピーター・ボクダノヴィッチ
主演…ジェフ・ブリッジス

The Last Picture Show

アメリカ映画には、coming of age（子供が大人になる瞬間）を描いた作品が数多くある。よく知られている「スタンド・バイ・ミー」や「古いところでは」おもいでのレストランなどの名画には、大人の世界に足を踏み入れた少年少女の戸惑いと切なさや鮮やかに描き出されている。しかし、このジャンルの最高傑作を問われれば、私は迷わず「ラスト・ショー」を推す。この映画を初めて見た時、私はまだ十五歳であった。アカデミー賞の八部門にノミネートされて二部門で受賞した傑作と聞いて、「キネマ旬報」の一九七一年度ベスト・テンで第一位に輝くことにもなる。映画館に足を運んだものの、派手なアクションも奇抜なSFXもなく、テキサスの田舎町の平々凡々たる日常生活を白黒の映像で捉えただけのこの映画は、また少年であった私には遠慮でしかなかった。

それからずっと後になって、この作品をビデオで再見する機会に恵まれた時、不覚にも涙が零れた。クラスで一番の美女を巡る争闘で、愛する人々の死、人妻との束の間の情事など——そこには少年が大人になるために通過しなければならない「儀式」が何の過不足もなすべで描かれていた。しかも、この種類の映画の多くがノスタルジアの甘酸っぱさによって青春の痛みを和らげて描写するのに対して、この映画は冷徹なまでのリアリズムで若者の苦悶と切なさ余すところなく記録している。主人公のソニー（ティモシー・ボトム）は弟のようにかわいがっていた少年を交通事故で亡くした後、居たたまれなくなってトラックに飛び乗り、町から出て行くとする。しかし、町外れまで来ると、彼はリターンし、今来た道を引き返して行く。その間、台詞は一切ない。だが、私には彼の考えていることが手に取るように分かった。「この町から出て行っても何も変わりはないのだ。どこへ行っても同じなのだ。結局、人生とはそういうものなのだ。儚い夢と失望の繰り返しなのだ。——彼はそう考えていたのである。

また何も成就していなかったが故にあらゆることが可能であると思われた青春の終焉で、フロンティア・スピリットさらにはアメリカン・ドリームそのものの消失を描き切ったところで、この映画は終わる。

だが、正にそのことによって、この映画は見る者を人生の真の出発点に立たせる。無垢の幻想が潰えた時、人は等身大の夢を一步ずつ実現する喜びを覚えていかなければならないのである。



写真協力 / TSUTAYA版急三番書店

『本学先生の 新刊』

(学術情報センター調べ)

イギリス・デモクラシーの擁護者 A.D.リンゼイ

永岡薫 編著 今関 恒夫 ほか執筆 五二〇〇円

児童虐待の家族と社会―児童問題にみる20世紀―

井垣 章二 著 ミネルヴァ書房 五〇〇〇円

天皇の記者たち ―大新聞のアジア侵略―

浅野 健一 著 スリーエーネットワーク 一、六〇〇円

ロレンス研究『堕ちた女』

D.H.ロレンス研究会 編 吉村 宏一 ほか執筆 一、八〇〇円

朝日出版社

よみがえる帝国

野田 宣夫 編著 佐藤卓巳 ほか執筆 三、三〇〇円

ミネルヴァ書房

世界経済の構造的変化とマクロ経済政策

同志社大学人文科学研究所 編 嵯峨野書院 二、八五〇円

ハワイ日系社会の文化とその変容

沖田 行司 編 ナカニシヤ出版 四、八〇〇円

会計判断の制度的性質

村瀬 儀伯 編 志賀理 ほか執筆 森山書店 三、五〇〇円

世界経済システムと西アジア ―近代化と変容―

山根 学 ほか著 知碩書院 三、五〇〇円

21世紀の情報専門職をめざして

大城 善盛 ほか著 関西大学出版部 二、八〇〇円

西日本後期旧石器時代の研究

松藤 和人 著 学生社 八、二〇〇円

初期マルサス経済学の研究

横山 照樹 著 有斐閣 四、六〇〇円

日本古代仏教の文化史

竹居 明男 著 吉川弘文堂 七、三〇〇円

ミシェル・ド・セルト 著 佐藤和生 訳

法政大学出版局 二、三〇〇円

現代社会と民法

中川 淳 編 佐藤 善彦 田井 義信 ほか執筆 三、〇〇〇円

有信堂高文社

日本経済を見る眼 ―経済学への誘い―

伊藤 史郎 八田 英一 北川 雅章 ほか著 知碩書院 二、九〇〇円

横井小楠のすべて

源了圓 ほか編 沖田 行司 ほか執筆 新物往来社 二、八〇〇円

上田

慧

さとし
商学部教授

『少年H』【上】【下】

妹尾河童著
講談社 各一、四五六円

少年Hの感性で歴史を読む

本書は、舞台美術家として活躍されている妹尾河童さんのつづき、少年時代を描いた自伝である。Hは著者の本名はじめのイニシャル、多感な少年期に遭遇した第二次大戦の中で、真実を知り、生き甲斐をつかちて明るく逞しく生きてきた少年の感動の記録である。すでに百一十部以上発売され、世代を超えて共感をよんでいる。

映画や絵画が大好きで、覗きカクリや紙芝居を見たくて、使いで買った糊の一部を友人に売って小銭を稼いだり、菓子などの特配に目くらむ天真爛漫なHがほほえましい。敬虔なクリスチャンである母の説く「愛」にとまどいながら、偏見を戒め、戦局の行方を語る洋服屋の父の話に耳を傾ける。いわくありげな赤盤のいちやんやオトコ姉ちゃんとの出会い、しかし、国際色豊かな神戸にも戦時色が深まり、人情が引き裂かれていく。家のお客の外国人の間に差別と悲しみが広がる。夏休みが廃止され、新聞から天気予報の記事が消え、子供が消防署の望遠鏡を奪うのさへ防諜法違反とされた時代である。下着は中学生になったHが着き込まれる戦争体験の寓話、「エロ天」こと配属教官のいじめへの反抗、生死をさまよう神戸大空襲の体験や報道の嘘などで戦争の不条理さを感じていく。

そして敗戦、手のひらを返すように軍国主義から民主主義へ熱狂的に変わった若者（わがめ）のような国民性に戸惑いながら、元軍人や教官の変貌がりに浅ましさを覚える。他方で、戦争終結を単純に喜びHが悲惨な家族環境に直面した友人に殴られ、ハッと気づき「この戦争はなんだ？ たんや？」と二人で号泣する。心が痛む、被災者住宅での飢え、壁の目玉も彼を悩ませる。とつにもならない苛立ち、価値観がひっくり返るコペルニクス的転回の時期、「個の自立」への葛藤もまた苦しいものであったに違いない。絵が得意なHは、小磯良平画伯との出会いもあって遂にグラフィックデザイナーへの道を歩み始める。

河童さんの感性であらう、じつに一章一章がイメージ豊かな舞台の一幕である。観客たる読者は、一幕進むにつれて、相づちを打ちながら夢中になる。この書によって、人は戦争体験が風化したとは言えなくなつた。Hが十七歳で初めて書いた文字看板は阪神大震災で消失したが、五十年以上も前に大空襲で街が沈み、そして遙く復興しようとする神戸があったことに勇気づけられる。そうした光と希望を少年Hの純粋な目に見出すことができる。さあ、河童さんのこの本で少年Hに会いに行こう。



おわびと訂正

ONE PURPOSE (同志社大学通信) 第114号に、誤りがありました。以下に文言の追加および訂正をして、執筆者はじめ、ご協力をいただいた方々、および読者のみなさまにご迷惑をおかけしたことをおわび申し上げます。

1) 3、4ページ「新学長と語る『我が夢と同志社の未来』」について
この記事には、録音テープから文字原稿化する過程で文言を欠落させ、校正の際にもそれを見落としたため、インタビューを受けた八田学長の真意が曲解されるおそれのある箇所がありましたので、以下のように訂正いたします。

3ページ1段目。本文(小見出しをのぞく)5行目。学長発言。
×誤り「……聖書や論語にあるように……」
○訂正「……論語にあるように……」と、「聖書や」を削除する。

3ページ3段目。本文13行目。学長発言。
×誤り「1985年に開設された……」
○訂正「1986年に開設された……」

4ページ1段目。本文20行目。学長発言。
×誤り「……授業と呼ばれるものではなく……」
○訂正「……授業と呼ばれるものはなく……」と、「で」を削除する。

4ページ1段目。本文22行目。と同じ学長発言。
×誤り「……情操教育の一環として……」
○訂正「……情操教育の一環として……」

4ページ1段目。本文24行目。と同じ学長発言。

×誤り「……『宗教学』が必修科目として……」
○訂正「……『宗教学』が経済学部では必修科目として……」と、「経済学部では」を追加。

4ページ1段目。本文27行目。と同じ学長発言。

×誤り「……を境になくなって……」
○訂正「……を境にそうではなく……」と、「そうでは」を追加。

にかかる訂正後の学長発言はつぎのようになります。

「学長・そうだね。私たちの時代には『チャペルアワー』というのがありました。確か水曜日の二時限目だったでしょう。その時間は授業と呼ばれるものではなく、キリスト教についての話とか、聖書の一節を解説していただいたり、いわゆる情操教育の一環として、そんな時間が設けられていたんですね。それと『宗教学』が経済学部では必修科目としてカリキュラムに組まれていたんですね。しかし両方とも、学園紛争の時代を境にそうではなくなっていました。残念ですね。同志社の原点というのは、キリスト教精神に培われた教育にあるわけで、これから21世紀に向けて、私学ならではの「良さ」というものをもう一度見つめ直し、ハード・ソフトの両面から、現代の若者たちに、発信してゆきたいと思っています」

2) 5ページからはじまる「我が学びや」について

11ページ2段目。1行目。

×誤り 福原 佐和子
○訂正 福原 左和子

11ページ3段目。1行目。

×誤り 坂保 正康
○訂正 坂保 正康

紀伊國屋書店から、 ビデオ『新島 襄』発売！

紀伊國屋書店「ビデオ評伝シリーズ 学問と情熱」の第10巻として『新島襄』が3月に発売された。同シリーズは、各分野の先駆者を取り上げ、その評価を映像でつづったもので今回は教育分野から新島襄が選ばれ上梓された。

ビデオは、1843年上州安中藩の祐筆（書記）新島家の嫡子として生を受けてから、1890年に病没するまでの波乱に満ちた生涯を現存する写真や古文書でつづっている。狭い藩をこえて広い世界に目を注ぎたいとの一念から志した学問への道、そして『聯邦志略』を通じて知った民主主義国家アメリカ…。1864年、ついに新島は箱館（現函館）から国禁を破って脱国。小刀を売ってまで香港で手に入れた漢訳聖書を船中で読み進んで、キリスト教への思いを深めたという。そして足を踏み入れた憧れの新大陸アメリカ。ビデオは、新島ゆかりの地ボストンの取材を通じて、彼が学んだアーモスト大学の学風やそこに残る新島の足跡をリアルに伝えている。

やがて祖国でのキリスト教主義の大学設立を決意した新島は、1875年京都に同志社英学校を開校。当初8人だった学生は、「熊本バンド」を迎え学校らしい体裁を整えていく。しかし、新島が目指す大学設立までにはまだ紆余曲折を経なければならなかった。「教育は、実は一國の一大事業なり…」と説き、教育の国家管理や中央集権化に反対する新島は、講演と募金運動に東奔西走。徐々に協賛者を増やしていくが、積み重なった疲労が彼の体をむしばみ、同志社への遺言として“同志社においては個儼不羈（てきとうふき）なる書生を圧束せず”の言葉を遺して静養先の大磯で没す。念願の同志社大学設立には、さらに30年の年月を待たねばならなかった。

紀伊國屋書店ビデオ評伝シリーズ 学問と情熱『新島襄』
STEREO 44分 価格 ¥25,000（税込）
（但し、同志社大学事業課、同志社大学生協書籍部
にて、「同志社大学版」を ¥9,000（税別）で販売中）



クラーク記念館と フレンドピースハウスの ライトアップ

今出川キャンパスで、明徳館、クラーク記念館、そして寺町今出川下る梨ノ木通りにあるフレンドピースハウス（旧ハワイ寮の旧館）がライトアップにより、夜空にその姿を浮かびあがらせている。



一年前から始まった明徳館塔屋の照明は、ワイルド・ローヴァー号のタブラントをややオレンジ色で、最上部分は真下から白っぽく照らしているが、クラーク記念館の照明は、周辺の三方から建物の西南側塔屋を中心に鐘楼さらにボールの先端までを照らし、照明の色は赤レンガの建物にマッチするよう、ややオレンジ色で霧に強く、光がよく通るハイカライトにした。

フレンドピースハウスは、「梨ノ木屋敷」と呼ばれていた明治時代の古い洋風住宅をできる限り復元をはかりつつ改修を行い、広く国際共同研究の施設として整備した建物で、照明は、建物西側の白い壁と緑のベランダを西側の庭から白っぽく照らしており、近隣や通行の人たちに好評を得ている。

ライトアップは、いずれも日没から22時まで。



お便りをお待ちしています

『ONE PURPOSE』は、学生のみなさんと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。本誌に関するご意見や企画のご提案、日頃学生生活を送っている中で気づいたことや疑問に思うこと、また悩んでいることなど、ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までお寄せください。

One PURPOSE

同志社大学通信115号

1998年6月1日（4・6・10・12月年4回）発行

発行 同志社大学

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 広報課

TEL. 075-251-3120 FAX. 075-251-3080

E-mail ji-koho@mail.doshisha.ac.jp